

中立で強い WHO が必要だ

河野 毅 (国際社会学部 教授)

国連の専門機関の世界保健機関 (WHO) は今年 1 月 20 日に新型コロナウイルスについて最初の日報を発出した。そこには、2019 年 12 月 31 日に中国政府から 44 名の未知のウイルスによる肺炎患者が武漢で発生し、1 月 12 日には中国政府が同ウイルスの遺伝子配列を世界に公開したと記されている。中国政府は 1 月 23 日に武漢を封鎖、1 月 30 日に WHO は感染の世界的危機が発生したと発表。この時の全世界の感染者は 1 万人弱、死者は 200 人程だった。3 ヶ月後の世界の感染者は 400 万人を超え、死者は 27 万人で、増加中である。

世界的大感染を招いたのは WHO の対応が遅かったからだろうか。2014 年に発生したエボラ出血熱感染発生後の対応が遅かったとして WHO は厳しく批判された。WHO がエボラ感染の世界的危機が発生したと発表したのは感染確認の 5 ヶ月後だった。当時ニューヨークの国連開発計画本部にいた筆者は、WHO のエボラ対応への遅さを国連内部から見ていた。遅い対応の主な理由は 3 つあった：(1) WHO 予算の 8 割は拠出国が支出目的を定めた予算で緊急事態用に活用できないこと、(2) WHO 事務局長は多額出資の拠出国に対し弱い立場にいること、(3) WHO 事務局長は世界に 6 つある WHO 地域事務局が各地域の主要国の影響下にあるため地域事務局を主要国の合意なしには動かせないこと。

要は WHO も、国連職員が自虐的に揶揄する「国連病 (給与を出してくれる拠出国には強く物を言えない)」で喘いでいたのである。



テドロス WHO 事務局長 © Fabrice Coffrini/AFP

この WHO の構造的問題は今でも変わらない。ただし、今回 WHO は感染確認後 1 ヶ月で世界的危機の発生を宣言し、エボラ感染時と比べれば早い対応だった。しかし、トランプ米国大統領は、WHO を中国寄りだと批判し、米国の拠出金の見直しをするとテドロス事務局長に圧力をかける。その中国は WHO による現地調査を 1 月 30 日まで拒否しデータの公表でも不透明だ。WHO は中国からの圧力に屈し台湾によるコロナ対策の知見を無視し続けている。

WHO は科学的根拠をもとに感染症と闘ってきた。例えば 1980 年の天然痘撲滅宣言まで 11 年間各国政府に働きかけワクチン接種の推進役を果たした。また、ポリオの撲滅まではあと一歩である。

WHO が機動的で政治的に中立な組織であるために世界各国は WHO の強化のため紐付きでない予算を充分につけるべきだ。科学的知見を政治判断で振り回すのは危険極まりない。